

研修名 保育内容研修9

平成28年9月30日(金) 10:00~12:30

講演 「今、保育の質を問うべきとき

—遊びと環境、幼児期の教育を考える—

講師 鳴門教育大学大学院 木下 光二 氏

1 講演要旨

- 1) 幼児期の遊びの大切さについて
- 2) 幼児期の過ごし方
- 3) 保育所保育指針・教育要領の改訂について
- 4) 遊びと記録

2 感想

私は、初めて木下先生の講演を聞かせて頂き、とても勉強になりましたし、改めて今自分がしている保育を見つめ直す機会になりました。

保育の質は子どもの笑顔の質であり、私たちが日々保育をしていることは、子どもたちの未来を育てていることにつながっていることの重さを改めて感じました。

また、幼児期の保育で大切なことを考えたとき、私は遊びや環境が大切だと思っていましたが、一番は遊び込めているかどうかであり、遊び込めるような環境を作ることがまず大切だと知りました。

自然環境を利用して子どもが遊びを作ったり、子どもが夢中で遊べたりする環境づくりをしていこうと思います。

5歳の遊びがその園を決めると言うておられたので、5歳児担任として自分の園を振り返ってみました。

今年度から公設民営になった保育所であり、ほとんどの職員が新体制となりスタートしました。

戸外活動を中心とした保育を進めており、毎日登所するとすぐに園庭で遊ぶことを基本にしています。そのために、子どもたちが遊びたくなるような魅力ある園庭作りを目指し、竹・泥土・電線ドラム・タイヤなどの環境を用意しています。4月に比べると子どもたちが考えて遊んだり作ったりするなど、生き生きと楽しむ様子が見られるようになってきました。しかし、先生のお話を伺い、もっともっと遊び込ませ、好奇心や探究心を育て、明日も続きがしたいと思えるような環境を作っていかなければならないと感じています。

自分で考えて遊びを作るのか、保育者が用意したもので遊ぶのかは保育の原点に関わることであり、保育所全体で再確認し今後の保育を進めていきたいです。

保育者として、今後の保育のあり方について指針を与えて頂いた気がしています。今後もまた是非お話を伺う機会があればと思います。

有難うございました。

(記録 京丹後市立こうりゅう保育所 田畑望)

